

事務事業評価表 平成25年度

政策 豊かさと創造性を育む生涯学習環境の充実

施策 ふるさと意識の醸成と地域文化の創造

基本事業 自主的市民文化 芸術活動の育成・支援

事業名 **陶芸文化普及振興事業**

[0617]

部名	教育部	事業開始年度	- 年度	実施計画事業認定	対象
課名	郷土資料館	事業終了年度	- 年度	会計区分	一般会計

事務事業の目的と成果	
対象	<p>(誰、何に対して事業を行うのか)</p> <p>市民</p>
意図	<p>(この事業によって対象をどのような状態にしたいのか)</p> <p>・多くの市民に陶芸体験の機会や鑑賞の機会を提供し、陶芸文化、ひいては芸術文化全般に対する市民意識の高揚を図る。</p>
手段	<p>(事務事業の内容、やり方、手段)</p> <p>・陶芸を中心とした企画展示事業の開催。 ・日曜陶芸体験、初級・中級等の教室や講座の開催。</p>

事業量・コスト指標の推移						
区分		単位	22年度実績	23年度実績	24年度実績	25年度当初
対象指標1	市民	人	122,138	121,705	121,385	121,385
対象指標2						
活動指標1	展示事業数	回	2	4	4	3
活動指標2	教室 講座事業数	事業	27	27	27	25
成果指標1	展示事業入場者数	人	3,443	3,239	3,705	3,600
成果指標2	教室 講座等事業参加者数	人	7,975	6,737	7,285	4,000
単位コスト指標						
事業費計 (A)		千円	6,994	7,465	7,433	7,467
正職員人件費 (B)		千円	6,851	6,020	5,611	5,639
総事業費 (A) + (B)		千円	13,845	13,485	13,044	13,106

費用内訳	
24年度	報酬 5,188千円、報償費 559千円、需用費 1,397千円、委託料 289千円

事業を取り巻く環境変化

事業開始背景	陶芸文化の普及振興	事業を取り巻く環境変化	
--------	-----------	-------------	--

24年度の実績による事業課の評価（7月時点）

(1)税金を使って達成する目的（対象と意図）ですか？市の役割や守備範囲にあった目的ですか？

義務的事務事業
 妥当である
 妥当性が低い

理由・
根拠は？

市民の文化・芸術の啓蒙・普及を目指し、よりよい鑑賞の機会の充実と創作の場の提供のために公共的機関がおこなうことが望ましい。

(2)上位の基本事業への貢献度は大きいですか？

貢献度大きい
 貢献度ふつう
 貢献度小さい
 基礎的事務事業

理由・
根拠は？

芸術文化鑑賞の機会と創作の場の提供。

(3)計画どおりに成果はあがっていますか？計画どおりに成果がでている理由、でていない理由は何ですか？

あがっている
 どちらかといえばあがっている
 あがらない

理由・
根拠は？

広報活動の更なる充実で、事業参加者数は増やす余地を残している。陶芸のみならず、関連する工芸分野の教室や陶器制作と食体験を組んだ事業など展開により幅広いニーズへの対応を試みている。

(4)成果が向上する余地（可能性）は、ありますか？その理由は何ですか？

成果向上余地 大
 成果向上余地 中
 成果向上余地 小・なし

理由・
根拠は？

事業の企画・運営にあたって工夫する。

(5)現状の成果を落とさずにコスト（予算＋所要時間）を削減する新たな方法はありませんか？（受益者負担含む）

ある
 ない

理由・
根拠は？

17年度に人件費等大幅な経費節減を行った。所定の事業開催には必要最低限の予算額である。
 受講料の年次毎の見直しを行う